

## 地域課題の解決に向けた取組

# 低コストで効率的な森林整備の普及に向けて

留萌南部森林管理署

### 【はつめい】

留萌南部森林管理署は、留萌振興局管内南部の1市3町の森林面積の61%を占める9万2千haを管理しています。河川上流部を占める国有林は、下流域の市町の水源になっているとともに、農地や沿岸環境の保全に寄与し、水源涵養機能や山地災害防止機能の発揮など地域の暮らしを支えています。

また、最南部の暑寒別岳を中心とする地域は、豊かな高山植物や優れた山岳景観を有しているため、暑寒別天売焼尻国定公園に指定されており、自然環境や豊かな森林生態系を保っています。

### 【地域の現状と問題点】

留萌地域では、人工林が利用期を迎え、主伐の増加が見込まれていますが、一方で、林業の担い手不足も深刻化しています。

下刈作業については、労働負荷が高く再造林や、保

育作業の円滑な実施が難しいこと、列状間伐については、一般民有林での実績は2割程度で普及・定着が進んでいないことから、造林・保育作業の低コスト・省力化が求められています。

### 【地域課題に対する取組】

当署における地域課題に対する取組として、  
○下刈の省力化試験地の設定

○列状間伐の普及に取り組んできました。



成長量調査風景

○下刈の省力化については、平成23年植栽箇所を試験地として、①通常の2回刈②2回刈を1回刈にして適

期に実施③2回刈を1回刈にして晩期に実施の3つのプロットを設定し、それぞれの成長量を調査しました。令和2年度の調査は各プロット内の抽出での成長量調査を実施し、下刈回数を減らした場合でも成長量に大きな差がないことが検証されました。



列状間伐について説明

○列状間伐の普及については、留萌振興局主催の「留萌森づくり交流会」において、指導林家・各市町村林務担当者に、現在国有林で実行中の間伐作業現場でハ

ーベストによる伐採・枝払い・玉切からフォワーダによる搬出までの一連作業を見てもらいました。現地で

は列状間伐の効率性や安全性、高性能林業機械を使用した低コストの作業システムについて説明し、一般民有林関係者に理解を深めてもらいました。



フォワーダによる搬出作業

### 【今後に向けて】

○下刈回数の削減については、今後、プロット内全植栽木の成長量を継続し、下刈終了後の成長量や苗木の残存率も調査、分析等を行い情報発信します。

○列状間伐の普及については、今後も機会あるごとに列状間伐のメリットや効率的な作業システム等について説明し、地域の理解を深めるよう取り組みます。